

IT時事ネタキーワード「これが気になる！」(第11回)

身近になるVR。小さい企業もビジネスにできるか

2017.03.07



Oculus

VR(Facebookが2014年に買収)の「Oculus」や、ソニーの「[PlayStation VR](#)」、HTCの「Vive」など、ヘッドマウントディスプレイを備えたコンシューマー向けVRシステムが大人気だ。スマートフォン(スマホ)を利用した気軽なVRも盛り上がり、2016年はVR元年といわれた。現在も勢いは衰えない。「VRで部屋を内覧」「観光名所のVR体験」など、VRビジネスも盛んだ。実際に体験するより安価かつ安全。場所や時間の縛りが無い、また好きにカスタマイズもできるといった自由度の高いVR。中小企業もビジネスに利用しない手はない。

VRの歴史は50年。一気に身近に

VRとは、バーチャルリアリティー(virtual reality)の略で、ユーザーの五感を含む感覚を刺激して、理工学的にあたかも現実のような状態をつくり出す技術やシステムを指す。仮想現実とも呼ばれる。



ハコスコは国内サービスが故に、身近なアーティストや施設のコンテンツが豊富

VRといえば、ヘッドマウントディスプレイを装着してコンピューターで作り出されたサイバースペースを歩き回る近未来を想像しがちだが、歴史は意外にも長い。バーチャルリアリティーは1989年にできた言葉だが、仮想空間に没入できるVRで不可欠なヘッドマウントディスプレイが作られたのはなんと1964年だ。イベントや遊園地、ゲームセンターなどで、映像はも

もちろん、立体音響、風や香り、イスやハンドルの振動、本体そのものの動きなどもVRの一種。こうした仕掛けは子どもの頃から普通に味わってきただろう。

2016年末に発売されたPlayStation VRは発売後すぐに売り切れ、現在も品切れ状態だ。こうしたコンシューマー向けVRシステムが大人気な一方、スマホを使って楽しめる手軽なVR、「スマホVR」もある。ビューアーにスマホを挿して見る。Googleの「Google VR」では、数百円から買える「Cardboard」という紙素材のビューアーで、豊富なVRコンテンツを楽しむ。同じく「ハコスコ」も紙素材のビューアーだ。



ハコスコビューアー。1000円ちょっとで手軽にVRが味わえる

触感を再現する技術も… 続きを読む